

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後デイサービスはぐっと		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 2月 1日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	9	(回答数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問看護・生活介護・放デイ等の多事業を展開しており、医療的ケア児から発達支援まで一貫した支援が可能。多職種連携により幅広いニーズに対応できる体制がある	訪問前後のミーティングを徹底し、支援内容や役割を明確化。訪問先や保護者と密に連携し、現場に即した支援を柔軟に調整している。	各事業間の情報共有をさらに強化し、ICT活用によるリアルタイム共有体制を構築。支援の質の均一化と迅速な対応力向上を図る。
2	経験豊富な看護師・療法士が在籍し、医療的視点を含めた専門的支援が提供できる。重症心身障害児にも対応できる高い専門性が強み。	個別アセスメントを丁寧に実施し、子どもの特性や環境に応じた具体的な支援方法を設定。訪問先職員にも分かりやすく助言を行っている。	外部研修や事例検討会を定期的を実施し、専門性のさらなる向上を図る。評価指標の標準化により支援の見える化を進める。
3	地域の学校・保育所・医療機関との連携実績があり、関係機関との信頼関係が構築されているためスムーズな支援導入が可能。	訪問後に必ずフィードバックを行い、訪問先と共通理解を形成。保護者とも日常的に情報共有し、支援の一貫性を保っている。	地域連携の場への参加を増やし、早期介入や支援拡大につなげる。情報発信(SNS・広報)を強化し、事業の認知向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援における記録や評価の方法が職員間でばらつきがあり、支援の質の均一化に課題がある。	記録様式や評価基準の統一が不十分であり、経験値に依存した運用になっているため。	記録フォーマットと評価指標を統一し、定期的な事例検討とチェック体制を整備する。
2	訪問先施設との連携において、情報共有のタイミングや深さに差があり、支援の継続性に影響が出ることがある。	連携方法が個人任せになっており、標準的な共有ルールやツールが整備されていないため。	ICTツールの活用や連携ルールの明確化により、情報共有の質とスピードを向上させる。
3	人員体制に余裕がなく、急な依頼や利用増加に対して柔軟な対応が難しい場面がある。	専門職の確保が難しく、採用・育成の仕組みが十分に整っていないことが要因。	人材育成プログラムの整備と採用強化、業務の効率化により持続可能な体制を構築する。